

ワイヤレス ミラーリングに対応!!

Android OS搭載のスマートフォンをWi-Fi接続することでYouTubeや人気の動画配信サービスのコンテンツをナビの大画面でHDの高画質で楽しめる。スマホの一部機種ではナビ画面でのタッチ操作も可能だ。



フロントカメラ

ナビ連携ならではの コンパクト設計

ナビ連携型前後 撮影対応2カメラ ドライブレコーダー **DRV-MN970**

価格：オープン（編集部調べ実勢価格：4万4000円前後）※7月上旬発売予定

彩速ナビ TYPE Mと同時に発表した前方と後方の同時録画に対応するナビ連携型2カメラドライブレコーダー。DRV-MN970は、彩速ナビ2022年モデル全機種との連携が可能で、ナビ本体の高精度車位置情報を利用した測位記録をはじめ、ナビ画面のタッチ操作による各種映像表示に対応。運転中にナビ画面で後方を映像で確認できるバーチャルルームミラー&サブリアカメラ機能を搭載する。



●バーチャルルームミラーとして後方の様子をナビ画面に表示できる



リアカメラ

比で約40%の小型化を実現。設置の自由度を高め、視界の妨げになりにくいコンパクトなデザインとなっている。前後カメラともにフルハイビジョン画質で高精細に記録。逆光などの明暗差の大きなシーンでも明瞭に記録可能なHDR機能も搭載。レンズは水平約128度、垂直約70度の広角仕様で広い範囲を記録できるほか、高感度CMOSセンサーとJVCケンウッドのチューニング技術で明るく鮮明な映像撮影が可能だ。



●ナビ上で記録映像の確認では記録した場所の地図表示も可能だ



先進感たっぷりの 安心装備をスマートに 装着できる

ナビ連携デジタルルームミラー型ドライブレコーダー **DRV-EMN5700**

価格：オープン（編集部調べ実勢価格：5万5000円前後）

彩速ナビの2022年モデルと連携可能な11型IPS液晶を採用したデジタルルームミラー型ドライブレコーダー。ナビ本体の高精度車位置情報を利用した測位記録が可能で、ナビ画面のタッチ操作による各種映像表示にも対応し、ナビの大画面で録画映像を確認できる。前方カメラは本体右側にあり、右ハンドル車のドライバーの視点に近い映像を記録できる。後方カメラはスリムな形状で後方視界を遮ることなくスマートに設置が可能。前後のカメラともに高感度の裏面照射型CMOSセンサー「STAR



VIS」を搭載。F値1.55の明るいレンズを採用し、夜間や暗いトンネル内の走行でも明るく鮮明な映像で記録する。HDR機能も搭載。明るさ調整機能を備え、スモークタイプのリヤウインドーでも明るく記録する。「音声コマンド機能」を搭載し、走行中でもハンドルから手を離さずに動画の録画開始操作や静止画撮影、表示画面の切り替えが可能だ。このほかドライブをサポートする「運転支援機能」や最長約10時間の動体検知対応の「駐車監視録画」も搭載する。



彩速ナビ2022年モデルはナビ連携に注目!!



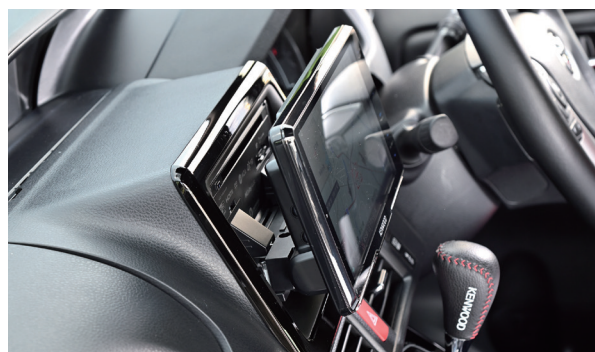
彩速ナビのフラッグシップ「TYPE M」の2022年モデルは、従来モデルの“彩速”ならではのキレイ、早い、使いやすいに加え、エンタメ、安心性能を拡充できる機能を備えユーザビリティを大幅進化。いっそう魅力のあるモデルに仕立てられているのだ。

文＝本誌・児嶋 写真＝澤田和久 photo by Kazuhisa Sawada
©JVCケンウッド 0120-2727-87 www.jvckenwood.com/

KENWOOD

彩速ナビ TYPE M MDV-M909HDF

価格：オープン（編集部調べ実勢価格：16万3000円前後）



●操作性に考慮したフラットキーデザインを採用する大画面9V型のフローティングモデル。2DINサイズの本体により新車と既販車で約300車種以上に装着可能だ

HD画面の魅力を引き立てるケンウッドの「彩速ナビ」のフラッグシップモデル「TYPE M」が2022年モデルとして登場した。ラインアップは9V型画面のフロートタイプモデル「MDV-M909HDF」と9V型インダッシュモデルの「MDV-M909HDL」、7V型200mmワイドモデル「MDV-M809HDL」、7V型180mmモデル「MDV-M809HDL」の計4モデルで、車両のインパネ形状や好みに合わせて選択できる。いずれも高精細HDパネルを搭載するほか、ハイレゾ音源再生に対応

するなど、基本のナビ機能だけでなくエンターテインメント機能を存分に楽しみたい人に向けたシリーズ最上位モデルだ。2022年モデルのトピックは、新たにワイヤレスミラーリングに対応したこと。これにより、Androidスマートフォンとのハイビジョン映像をWi-Fi接続によりナビの大画面で楽しめるようになった。さらにスマートフォンをBluetoothで接続して音楽CDのタイトル情報やアルバムアート（ジャケット写真）などの表示が可能になるなど、エンターテインメント性能に磨きをかけた。従来モデルでもHDMI接続によるスマホのミラーリングには対応していたが、Android端末にはこれに対応していないものが多くある。そのため、より多くのAndroidスマホユーザーが手軽にスマホのハイビジョン映像を楽しめるようワイヤレスミラーリングに対応したというわけだ。ちなみにiPhoneでは従来どおりHDMI接続でのミラーリングに対応する。

基本の機能が高スペック

2022年モデルは、高精細・広視野角（上下左右170度）のHDパネルを搭載。さらにグレア処理した静電容量式タッチパネルの採用により、快適な操作感を実現する。ナビ機能としては独自の高速描画技術「ジェットレスポンスエンジンIII」や膨大な情報量を収納しながら高速レスポンスを実現するデータ圧縮技術「S3フォーマット」を採用。緻密でクリアなHD画像表示や、流れるような操作感を実現するユーザーインターフェース「オーガニックGUI」などにより、彩速ナビならではの快適性を披露する。スマホライクなドラッグ（画面に触れたまま動かす）やフリック（はらい、ピンチイン（2本指で縮める）、ピンチアウト（2本指を広げる）などの操作も引っかけのいい、自然な操作感が魅力だ。

地図画面では見やすさにこだわった新地図色「スマートカラー」のほか、視認性に優れる「ダイナミックカラー」、スマートフォンライクな「ダークカラー」から選択可能だ。また地図表示を真偽から鳥瞰図へと好みに合わせて俯角を1度単位で調整できる「3Dスライダー」、

「ドライブピンング3Dマップ」でランド画面で表示できるのだ。これらの機器の各種機能はナビ画面上で操作可能。簡単かつスマートに操作できる点もポイント。ほかにもTYPE M 2022年モデルは、地図アイコンをリニューアル。より直感的でわかりやすいデザインとして、ナビ機能もブラッシュアップしている。

安心性能も拡充。カーナビと連携するデジタルルームミラー型ドライブレコーダー「ミラレコ」[DRV-EMN5700]、もしくは前後撮影対応2カメラドライブレコーダー「DRV-MN970」と接続することで、カーナビ本体のGPSや各種センサーから高精度な車位置情報を取得し、ナビの地図画面上に録画映像を表示できる。どちらもHD画質で捉えたものをナビの高精細なH

ナビ連携ドライブレコーダーにも対応

彩速ナビTYPE M ラインアップ

【9V型インダッシュモデル】



MDV-M909HDL

価格:オープン
(編集部調べ実勢価格:
15万2000円前後)

【7V型200mmモデル】



MDV-M809HDW

価格:オープン
(編集部調べ実勢価格:
10万5000円前後)

【7V型2DIN (180mm) モデル】



MDV-M809HD

価格:オープン
(編集部調べ実勢価格:
10万5000円前後)



HDで“つながる”充実の外部機器接続

ナビのHD画質を存分に活用できる新搭載のワイヤレスミラーリング機能やドライブレコーダー接続のほか、10.1型HD液晶リヤモニター「LZ-1000 HD」(別売り)のHDMI接続により、ナビで再生

する映像コンテンツを後席乗員が楽しめるようになる。さらに音質にこだわるスピーカーなどもラインアップ。これらを装着することで快適で楽しいドライブを実現可能だ。

11年目の「彩速」は“変わらず”に進化する



彩速
HD
Sat-Soku

オーディオブランドとして高い知名度と技術力を武器に1990年代にカーナビ製品を精力的に販売してきたケンウッド。サクサクとストレスのない操作感や鮮やかな色彩表現により、カーナビの使い勝手だけでなく映像視聴などエンターテインメント性能においても評価されているのが「彩速ナビ」だ。

「彩速ナビ」という商品名が登場したのは2011年のこと。じつはそれ以前でもこの「彩速」性能は発揮されていたのだが、そのきっかけは日本ビクター(以下JVC)とケンウッドの経営統合にあった。

08年の両社の経営統合を機にカーナビの商品名が新たに「AVENUE E(アベニュー)」と名付けられた。当時主流だったのは本体内に日本全

国の地図を収録できる大容量の記録媒体HDD(ハードディスクドライブ)だったのだが、ケンウッドはデータの読み出し速度に優れるSSD(ソリッドステートドライブ)半導体メモリをいち早く採用。HDDに比べ記憶容量に劣るが、これを独自の圧縮技術により解決。素早い描画やストレスフリーの操作感を実現した。また、映像分野で高い技術力を持つJVCの映像処理技術投入することで、画面の表示クオリティが向上。両社の技術力を最大限に生かした製品となっていた。

そして11年にJVCケンウッドと社名が改められたのを機に、きれいな映像表現や、サクサク動く快適なナビ操作を視覚的にも語感としてもイメージしやすとした「彩速」とい

うフレーズを前面に押し出した製品展開が図られたのだ。

カーナビ性能とエンターテインメント性能の基幹技術をベースに扱いやすさや時流に合わせた性能を付加し進化する彩速ナビ。2022年モデルでは、Androidスマホのワイヤレスミラーリング機能をはじめ、デジタルミニ型ドライブレコーダー「ミフレコDRIVEMN5700」や前後2カメラドライブレコーダー「DRIVEMN970」とのHD接続による連携機能なども備えるなど、HD画質のカーナビ画面の利点を最大限に生かしながら快適・安心性能を強化している。

カーナビの高性能化をはじめ、さまざまな外部機器との接続機能などにより懸念されるのは「彩速の速性能の維持」。

担当者によると、前年モデルよりも組み合わせられる機器や扱う情報量が増えており、従来よりも高負荷がかかる場合もあるが、レスポンス性能に関してはそんな色なく「快適な操作感が得られるようチューニングしています」と自信を見せる。

「彩速」というイメージを損なうことなく、安心して快適に使えるようブラッシュアップしていくのは簡単なことではない。今回は新製品のTYPE Mを紹介しているが、エントリーからフラッグシップまで全モデルが、彩速の名に恥じない鮮やかさと快適な操作性を備えている。特筆すべきは同等グレードのライバルと比べてもコストパフォーマンスに優れるところで、どのモデルを選んでも「彩速」というストロングポイントがもれなく利用できる。

—— 使い勝手に優れる充実のナビ機能 ——



●地図スケールを変更することなく自車周辺の詳細地図を素早く確認できる「ワンタッチルーペ」を搭載する

●ルート案内中では進路変更ポイントまでの距離と方向を素早く認知可能な「ここです案内」を表示する



好みで選べる3つの地図色

●HD解像度に対応する地図は、見やすさを追求し配色にこだわった新地図色「スマートカラー」のほか、従来の彩速ナビで好評のメリハリのある彩色の「ダイナミックカラー」、スマホにも採用されるトーンを抑えた「ダークカラー」を採用



ダークカラー



ダイナミックカラー



スマートカラー



安心・安全運転をサポートする機能を搭載

●30km/hの速度規制エリアを表示する「ゾーン30エリア表示」や高速道路を走行中に逆走を検知すると画面表示と音声で注意喚起する「逆走警告案内」のほか、「一時停止表示」、「リフレッシュ通知」、「スマートフォン置き忘れ警告」などにより安心・安全運転をサポート

地図の俯角をリニアに調整可能



●ドライビング3Dマップを表示時に3Dスライダー操作により地図の俯角を1度単位(1〜64度)で調節可能。リアルな描画を保ちながら好みの角度に手軽に変えられる



ハイレゾ音源に対応した充実のオーディオ機能

●ハイレゾ音源をBluetooth接続で転送する高音質コーデック「LDAC」に対応するほか、非ハイレゾ音源を高音質化する独自技術「K2テクノロジー」などこだわりのオーディオ再生機能を搭載

KENWOOD 彩速ナビ TYPE M

エンタメ機能に関しては、前述のワイヤレスミラーリングやHDMI接続によるスマホ連携のほか、広範囲でクリアな地デジ放送を楽しむ「広感度地デジチューナー」を搭載。DVD、USBデバイス、SDカードなどさまざまなメディアの動画／音楽再生が可能だ。HDMI接続ではリヤモニターのHD接続にも対応し、車内まるごとエンタメ空間に仕立てることもできる。

オーディオ機能はハイレゾ音源再生に対応するほか、CDやMP3などの非ハイレゾ音源をもマスター音源に近づける独自の高音質化技術「K2テクノロジー」を搭載。さらに車内に最適な音響に整える「プロモードEQ」や好みの音場を作り出せる各種サウンド調整機能を備える。彩速ナビTYPE Mは、フラッグシップらしい快適・便利に使える機能満載のケンウッド自信作なのだ。

メディアもサウンドも移動がもっと楽しくなる

安心・安全運転をサポートする機能においても「ゾーン30エリア表示」や「一時停止案内」、高速道路走行中の「逆走警告案内」など、うっかりミスを防ぐ機能が備わる。

ドマークに隠れたマップを可視化できる「半透過オン／オフ」機能をつけるなど、HD対応の美しい地図表示を使いやすくする仕掛けを備える。「6軸慣性センサー」や「高精度測位環境補正プログラム」により高精度な自車位置を表示するほか、独自のアルゴリズムでGPS情報の信頼度を判定し、電波の届きにくい場所でも位置ズレを軽減。ルート案内時の不安を解消する。